

運営会議 (旧 まちの課題整理プロジェクトチーム) における
課題整理状況
(第30回 全体会 資料)

2018/5/22

分冊②

【教育と福祉と医療の連携に関するプロジェクトチーム】

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？</p> <p>〇〇が〇〇</p> <p>〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある</p> <p>〇〇が必要</p>
5	<p>養護学校からの帰りに、児童デイに通わせたいが、家族が仕事などで送迎することができないため困っている。私的契約で送迎サービスを行っている児童デイの事業所は少なく、あったとしても既に定員がいっぱいである。一方、福祉輸送サービスだと割高で利用できない。(東区5)</p>	<p>●障がい児の通学・通所に利用できる送迎サービスの充実を図る。</p> <p>●移動困難者への支援をより重点的な課題ととらえ、障がい分野以外(教育分野など)とも連携し、解決策を検討する。</p> <p>●児童デイサービス事業所のあり方について本質的な議論を行う。</p>
9	<p>・移動困難者の通学・通勤・通所が保証されていない。</p> <p>・東区は地下鉄沿線外の移動(交通)が不便である。(東区9)</p> <p>※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>●障がい者の移動の自由を確保するため、移動支援事業の対象要件の見直しを検討するとともに、送迎付きの事業所が増えるような施策を検討する。</p> <p>●現行の障害程度区分認定のしくみを見直す。</p> <p>●障がい程度区分認定調査員のスキルアップを図る。</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての 見解</p>	<p>結果</p>	
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>【課題整理済】41の見解と同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉の問題、教育の問題と言うわけではなく、また普通教育と特別支援教育の問題と移動の確保の問題は別の問題。 福祉と教育の現場レベルの意見交換があってもよい。プロジェクトをつくって現場レベルの担当者が非公式で話し合っても良いと思う。子ども部会でも同様の問題が出ている。 No.11の学内のボランティアの問題も含め、考える。 石狩管内特別支援教育ネットワーク連絡協議会には、障がい別（視覚、聴覚、知的、肢体不自由（旧札幌肢ネット）、病弱）と地域別（東、西、南、北）に部門を分けて関係機関との連携構築などに取り組んでいる模様。 <p>参考情報（旧札幌圏肢体不自由養護学校ネットワーク通信から） http://www.makomanaiyougo.hokkaido-c.ed.jp/sasshinet/sasshinet22.htm</p> <p>⇒教育と福祉の連携に係る課題検討会を立ち上げて課題整理を行った（25年度実施、26年度から子ども部会にて引き続き検討。また移動に関する課題の一つとしても、41の見解のとおり検討も進める）</p>	<p>【東区との意見交換結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の敷居が高いと感じている。実現したら連携が進むのではないかと期待している。 <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者総合支援法の改正（平成30年度施行）により、障害福祉サービス等の情報公開制度が創設。項目に「利用者の送迎の実施」があり。 	<p>主：移動 副：教育</p>
<p>【課題整理済】41の見解と同じ</p> <p>東区だけの課題ではなく、全市的な課題と認識されるため、以下の流れで、課題解決や情報共有を進める。</p> <p>【第1段階】</p> <p>各区地域部会が、各部会の開催時等できるだけ速やかに、各区で障がい者の通勤・通所に関して課題になっていることおよび各区またはある地域で工夫している事例を集め、まちの課題整理プロジェクトチームへ報告する。</p> <p>【第2段階】</p> <p>まちの課題整理プロジェクトチームが、上記課題及び工夫点を集約して、それぞれの課題について、解決策を考える部会ごとの役割分担を行い、課題及び解決策をまちの課題整理プロジェクトチームがまとめて、協議会全体で共有及び全体会（運営会議）に報告する</p> <p>想定される課題は、移動支援の要件、交通費助成、各事業所や地域での工夫、実際の対応など</p> <p>※通学の課題は「福祉と教育の私的勉強会」に委ねる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄沿線外等、本人のみならず、環境が原因となっていることも大きい。 通所の送迎加算は通所人数に応じて設定されているが、送迎1件あたりに平均しても150円。 雪国という事情も勘案して特区があってもよいのではないかと。制度の話ではあるが、国に訴えていく要素もある。 	<p>主：移動 副：教育</p>

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
16	<p>障がい児の通学に関して、移動介助が必要なケースに対する支援の必要性。(東区16) ※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>●市に、移動支援事業の拡大、その他の施策の実施、ガイドラインの柔軟な運用を求め。 ●移動困難者への支援をより重点的な課題ととらえ、障がい分野以外(子育て分野など)とも連携し、解決策を検討する。</p>
19	<p>障がい児の通学に関して、移動支援が必要なケースに対する支援の必要性。(相談1) ※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>・移動支援の通学利用に関わる利用条件が限定的。 ・経済的に負担の少ない通学に使える移動支援の社会資源がない。</p>
42	<p>4月特別支援級の小学1年生に進級する軽度発達障がいの男の子。下に幼稚園に入園する弟がおり、母親一人では2人を別々の幼稚園、学校に送れないため、移動支援の通学利用でヘルパーを利用したいという希望があったが、身体介護なしで単価も安く、時間帯もヘルパーが都合がつかなくて対応してもらえない事業所が見つからなかった。(相談11)</p>	<p>移動支援の通学利用は、必要とする人たちの時間帯がかぶるため、ヘルパーが足りずに対応してもらえない。尚且つ、身体介護なしの支給決定だと単価が安くて引き受けてもらえる事業所がない。</p>
43	<p>母が精神障がい、障害児の登校の付き添いや送り出しができず、不登校になってしまっている事例等。(相談12)</p>	<p>移動支援が、申請により通学にも利用できるよう制度は拡充されたが、実際に支援してくれるヘルパー事業所が極端に少なく苦慮している。事業所が見つからないために家族が多大な負担を強いられたり、児童が不登校になっていたりという事例が多く存在する。</p>
11	<p>学校内の移動などを支援してくれるボランティアを探している。学校でも探してくれたが見つからない。(東区11) ※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>●学校内での移動の自由を確保するため、市教委に「学びのサポーター」の活用拡大を働きかける。</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての 見解</p>	<p>結果</p>	
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>【課題整理済】 41の見解と同じ</p>		<p>主：移動 副：教育</p>
<p>【課題整理済】 41の見解と同じ</p>		<p>主：移動 副：教育</p>
<p>【課題整理済】 41の見解と同じ</p> <p>・子ども部会に情報提供</p>		<p>主：移動 副：教育</p>
<p>【課題整理済】 41の見解と同じ</p> <p>子ども部会に情報提供</p>		<p>主：移動 副：教育</p>
<p>【課題整理済】 ⇒教育と福祉の連携に係る課題検討会を立ち上げて課題整理を行った (25年度実施、26年度から子ども部会にて引き続き検討する)</p>	<p>学びのサポーターに関して、 平成27年度より、身体介助を 専門に行う介助アシスタント を新設。</p>	<p>主：教育</p>

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？</p> <p>〇〇が〇〇</p> <p>〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある</p> <p>〇〇が必要</p>
99	<p>保護者が子どもの不登校と暴力で困っているが、学校側が家庭の事情がうまく伝わらず、対応がうまくいかない事例。最終的には、学校や行政と会議をし情報共有を重ねることで、理解を得て朝からデイサービスへ行くことで合意できたケース。</p> <p>※個別ケースのため詳細は記載しません。</p> <p>【相談】</p>	<p>【課題】</p> <p>不登校児についての相談の増加とその対応。教育機関との連携について</p> <p>【考えられる課題解決策】</p> <p>○家庭訪問や個別対応など、手厚い対応のできる専門性のある事業所の育成。</p> <p>○教育機関と障がい福祉分野の相互理解、協力体制の構築のための研修等。</p> <p>○不登校児のメンタルケアについての研修。</p> <p>○教育機関との連携の仕組みの検討。</p> <p>○関係機関がそれぞれの機能を理解するやり取り(学校との理解・連携)</p> <p>*子ども部会に学校の方が入ってきてもらっており、少しずつ変わってきている様子もある。</p> <p>*企画推進室の研修会アンケートでも不登校、引きこもりの研修を希望する声が多かったので、相談支援部会の企画推進室でも研修を考えていけるのではないか。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> ●医療機関の受け入れ態勢が整っていない ●医療機関に関する情報が不足している ●研修体制が充実していない(北区1) 	<p>福祉と医療の連携について</p>

<p>運営会議 (旧まちの課題整理プロジェクトチーム) としての 見解</p>	<p>結果</p>	
<p>誰が 何を いつ どのように</p>	<p>運営会議 (旧まちの課題整理 プロジェクトチーム) の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>【課題整理済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の問題は、取り組まなくてはならない課題となっている。 ・児童相談所から放課後等デイサービスへの相談も増えてきている。 ・福祉と学校の連携ができているところはすごく連絡を取りあって、保 健室対応や放課後等デイサービスをうまく利用できている。学校側の理 解が追いついていないと、困難な状況が出てくるため、色々な人たちと 連携をしていくしかない。 ・スクールソーシャルワーカーの体制整備の課題でもあるのではない か。 <p>※課題については、教育と福祉と医療の連携プロジェクトチームで検討 を進める。</p>		<p>主：教育</p>
<p>【課題整理中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各部会が医療機関（精神科病院に限らず）への参加を呼び掛ける。 ○北海道歯科医師会が積極的に障がいに関する勉強会を開催しているの で、他の医師会等とも連携できないか、上記部会への参加を通して、各 部会で検討する。 ○さっぽろ医療計画との連携ができないか確認する。 ○まちの課題整理プロジェクトチームが、具体的な課題の背景を北区地 域部会に確認し、それをもとに市内の医療機関等にアンケート等で実態 を聞いてみる。 		<p>主：医療</p>